

# 四半期報告書

(第162期第1四半期)

日本カーボン株式会社

(E01140)

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
3 【経営上の重要な契約等】 .....	4
第3 【提出会社の状況】 .....	5
1 【株式等の状況】 .....	5
2 【役員の状況】 .....	6
第4 【経理の状況】 .....	7
1 【四半期連結財務諸表】 .....	8
2 【その他】 .....	15
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	16

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年5月11日
【四半期会計期間】	第162期第1四半期（自 2020年1月1日 至 2020年3月31日）
【会社名】	日本カーボン株式会社
【英訳名】	Nippon Carbon Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 宮下 尚史
【本店の所在の場所】	東京都中央区八丁堀一丁目10番7号
【電話番号】	03（6891）3730 （大代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 業務統括部長 今井 浩二
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区八丁堀一丁目10番7号
【電話番号】	03（6891）3730 （大代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 業務統括部長 今井 浩二
【縦覧に供する場所】	日本カーボン株式会社大阪支店 （大阪市北区西天満4丁目11番22号（阪神神明ビル内）） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第161期 第1四半期 連結累計期間	第162期 第1四半期 連結累計期間	第161期
会計期間	自 2019年1月1日 至 2019年3月31日	自 2020年1月1日 至 2020年3月31日	自 2019年1月1日 至 2019年12月31日
売上高 (百万円)	12,103	6,249	44,931
経常利益 (百万円)	4,983	1,108	15,106
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益 (百万円)	3,266	485	9,700
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	3,428	△499	10,714
純資産額 (百万円)	45,474	49,914	51,654
総資産額 (百万円)	72,983	72,687	77,939
1株当たり四半期（当期）純利益 (円)	295.26	43.88	876.81
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	53.8	59.8	57.9

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 1株当たり四半期（当期）純利益の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数については、株式給付信託（BBT）が保有する当社株式を控除しております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容に重要な変更はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1)経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費増税後のGDP成長率下落が明らかになる中、新型コロナウイルスの世界的感染症拡大により輸出が弱含むなど、停滞感が顕著となりました。各種イベントの自粛が求められ、有効求人倍率も悪化するなど、企業マインドも悪化しました。

世界経済は、米国では2月までの雇用情勢は良好であったものの、3月以降は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い経済が大きく減速し、また、欧州では、昨年から引き続き輸出や鉱工業生産の下落傾向が続く中、新型コロナウイルス感染症拡大により3月以降のさらなる経済の減速が懸念されています。また、中国は、米中対立による影響に加えて、新型コロナウイルス感染症拡大により工業生産が大幅に減退しました。

このような状況の中、当社グループの主要関連産業であります鉄鋼産業は、鋼材受注が弱含んでおり、今後も新型コロナウイルス感染症拡大が長期化する際は、さらに下振れすることが懸念されています。半導体関連産業は、米中対立を背景に大型データセンターなどへのインフラ投資が停滞状態にあったことなどに加え、スマートフォン・自動車・産業機械などの最終製品の生産が停滞したことなどから足踏み状態となりました。一方で、国内の大型データセンター投資については、在宅勤務やリモートワークが加速したことを契機に、5Gの本格化にむけた拡大に向かうことが期待されています。

こうした事業環境の中、当社グループは、生産効率の向上と原価および環境負荷の低減を目的とした生産設備の拡充や、販売力を高めるための販売網強化を推進してまいりました。また、企業市民として、コンプライアンス体制の一層の強化・拡充と最良の製品を通して広く社会に貢献すべく品質管理の徹底を推進してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高62億4千9百万円（前年同四半期比48.4%減）、営業利益11億2千万円（前年同四半期比78.0%減）、経常利益11億8百万円（前年同四半期比77.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、4億8千5百万円（前年同四半期比85.1%減）と減収減益となりました。

なお、セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

#### (炭素製品関連)

電極部門は、電極市場の需給が緩んだことから、売価重視の販売を継続しておりますが、国内・輸出とも販売量は対計画比で半減する結果となっております。

ファインカーボン部門は半導体関連市場における新規設備投資等の停滞が顕在化しています。

リチウムイオン電池負極材は、民生・車載とも堅調な結果となりました。

この結果、売上高は56億8千1百万円（前年同四半期比51.2%減）となり、セグメント利益（営業利益）は9億5千1百万円（前年同四半期比80.8%減）となりました。

#### (炭化けい素製品関連)

炭化けい素連続繊維の製造・販売については、概ね計画通りに推移しました。

この結果、売上高は4億3千4百万円（前年同四半期比173.6%増）となり、セグメント利益（営業利益）は1億2千6百万円（前年同四半期比262.9%増）となりました。

(その他)

その他の事業は、産業用機械の製造・販売が減少した結果、売上高は1億3千3百万円（前年同四半期比54.9%減）、セグメント利益（営業利益）は3千8百万円（前年同四半期比59.6%減）と減収減益となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間における総資産は、前連結会計年度末に比べ52億5千1百万円減少し、726億8千7百万円となりました。

流動資産は、棚卸資産の増加10億2千8百万円がありましたが、受取手形及び売掛金の減少42億4千4百万円等により、前連結会計年度末に比べ46億1千7百万円減少し、459億8千9百万円となりました。

固定資産は、有形固定資産の新規取得・設備更新等による増加7億4千7百万円等がありましたが、投資有価証券の減少15億2千5百万円等により、前連結会計年度末に比べ6億3千4百万円減少し、266億9千8百万円となりました。

負債は、前連結会計年度末に比べ35億1千2百万円減少し、227億7千2百万円となりました。

流動負債は、支払手形及び買掛金の減少12億3百万円、未払法人税等の減少16億7千8百万円等により、前連結会計年度末に比べ、29億8千7百万円減少し、177億3千7百万円となりました。

固定負債は、繰延税金負債の減少4億6千1百万円等により、前連結会計年度末に比べ、5億2千4百万円減少し、50億3千4百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益4億8千5百万円がありましたが、配当金の支払11億2百万円、その他有価証券評価差額金の減少10億2千9百万円等により、前連結会計年度末に比べ17億3千9百万円減少し、499億1千4百万円となりました。

## (3) 研究開発活動

当社グループの当第1四半期連結累計期間における研究開発費の総額は1億3百万円（全額炭素製品関連セグメント）であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (2020年5月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,832,504	11,832,504	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式。 単元株式数100株。
計	11,832,504	11,832,504	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2020年1月1日～ 2020年3月31日	—	11,832,504	—	7,402	—	1,851

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

### ① 【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 726,800	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式（その他）	普通株式 11,055,400	110,554	同上
単元未満株式	普通株式 50,304	—	同上
発行済株式総数	11,832,504	—	—
総株主の議決権	—	110,554	—

- (注) 1. 単元未満株式には、当社所有の自己株式38株が含まれております。
2. 「完全議決権株式（その他）」の普通株式には、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1百株（議決権1個）含まれております。
3. 「完全議決権株式（その他）」の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が15百株（議決権15個）含まれております。
4. 「完全議決権株式（その他）」には、株式給付信託（BBT）が保有する当社株式427百株（議決権の数427個）が含まれております。

### ② 【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
(自己保有株式) 日本カーボン株式会社	東京都中央区八丁堀 一丁目10番7号	726,800	—	726,800	6.14
計	—	726,800	—	726,800	6.14

- (注) 1. 「自己名義所有株式数」のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1百株あります。
2. 株式給付信託（BBT）が保有する当社株式427百株は、上記の自己株式には含まれておりません。

## 2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において、役員の変動はありません。

#### 第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2020年1月1日から2020年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(2020年1月1日から2020年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,852	16,663
受取手形及び売掛金	※ 14,010	9,766
商品及び製品	9,153	10,002
仕掛品	4,829	4,901
原材料及び貯蔵品	4,220	4,326
その他	562	351
貸倒引当金	△20	△23
流動資産合計	50,607	45,989
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	16,680	16,758
減価償却累計額及び減損損失累計額	△9,536	△9,637
建物及び構築物（純額）	7,144	7,121
機械及び装置	44,008	44,531
減価償却累計額及び減損損失累計額	△37,232	△37,407
機械及び装置（純額）	6,775	7,123
車両運搬具及び工具器具備品	3,264	3,283
減価償却累計額及び減損損失累計額	△2,708	△2,743
車両運搬具及び工具器具備品（純額）	555	540
土地	3,523	3,520
建設仮勘定	821	1,262
有形固定資産合計	18,820	19,567
無形固定資産	160	188
投資その他の資産		
投資有価証券	6,044	4,518
繰延税金資産	371	405
その他	1,946	2,024
貸倒引当金	△10	△7
投資その他の資産合計	8,351	6,942
固定資産合計	27,332	26,698
資産合計	77,939	72,687

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※ 5,821	4,618
短期借入金	8,390	8,590
未払費用	1,118	1,209
未払法人税等	1,995	317
賞与引当金	214	479
役員賞与引当金	96	15
工場移転関連費用引当金	317	290
その他	※ 2,770	2,216
流動負債合計	20,725	17,737
固定負債		
長期借入金	3,637	3,590
繰延税金負債	569	107
退職給付に係る負債	757	743
役員退職慰労引当金	43	46
役員株式給付引当金	70	69
環境対策引当金	28	28
資産除去債務	62	62
その他	390	386
固定負債合計	5,559	5,034
負債合計	26,284	22,772
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,402	7,402
資本剰余金	7,857	7,857
利益剰余金	29,689	29,068
自己株式	△1,921	△1,923
株主資本合計	43,028	42,406
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,129	1,099
為替換算調整勘定	49	32
退職給付に係る調整累計額	△66	△63
その他の包括利益累計額合計	2,112	1,069
非支配株主持分	6,513	6,439
純資産合計	51,654	49,914
負債純資産合計	77,939	72,687

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年3月31日)
売上高	12,103	6,249
売上原価	5,659	4,093
売上総利益	6,444	2,156
販売費及び一般管理費	1,348	1,035
営業利益	5,095	1,120
営業外収益		
受取賃貸料	5	6
受取保険金	6	63
その他	41	41
営業外収益合計	53	111
営業外費用		
支払利息	23	17
為替差損	9	16
持分法による投資損失	23	31
固定資産除却損	53	5
その他	56	52
営業外費用合計	165	123
経常利益	4,983	1,108
特別損失		
火災損失	-	※247
特別損失合計	-	247
税金等調整前四半期純利益	4,983	861
法人税、住民税及び事業税	1,532	319
法人税等調整額	20	△17
法人税等合計	1,552	302
四半期純利益	3,431	559
非支配株主に帰属する四半期純利益	165	74
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,266	485

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年3月31日)
四半期純利益	3,431	559
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△13	△1,036
繰延ヘッジ損益	△2	—
為替換算調整勘定	△4	△25
退職給付に係る調整額	16	3
その他の包括利益合計	△3	△1,059
四半期包括利益	3,428	△499
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,260	△555
非支配株主に係る四半期包括利益	167	56

**【注記事項】**

(追加情報)

(取締役に対する株式給付信託 (BBT) 導入)

当社は、取締役等の中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、業績連動型株式報酬制度「株式給付信託 (BBT)」を導入しております。

当該信託契約に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)に準じております。

**(1) 取引の概要**

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託を通じて取得され、取締役等に対して、当社が定める役員株式給付規定に従って、当社株式および当社株式を時価で換算した金額相当の金銭が本信託を通じて給付される業績連動型株式報酬制度です。なお、取締役等が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として取締役等の退任時となります。

**(2) 信託に残存する自社の株式**

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価格(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当第1四半期連結会計期間末における当該自己株式の帳簿価額は128百万円、株式数は427百株、当第1四半期連結会計期間の期中平均株式数は427百株となります。また、1株当たり情報の算定上、控除する自己株式に含めております。

**(四半期連結貸借対照表関係)**

※手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。したがって、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
受取手形	120百万円	—
支払手形	268 "	—
設備関係支払手形	419 "	—

**(四半期連結損益計算書関係)**

※火災損失

当第1四半期連結累計期間(自2020年1月1日至2020年3月31日)

2020年1月に発生した当社富山工場の火災による生産設備の復旧費用であります。

**(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)**

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年3月31日)
減価償却費	408百万円	528百万円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年3月27日 定時株主総会	普通株式	555	50.00	2018年12月31日	2019年3月28日	利益剰余金

(注) 2019年3月27日定時株主総会決議による配当金の総額には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年3月27日 定時株主総会	普通株式	1,110	100.00	2019年12月31日	2020年3月30日	利益剰余金

(注) 2020年3月27日定時株主総会決議による配当金の総額には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式に対する配当金4百万円が含まれております。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	炭素製品 関連	炭化けい素 製品関連	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,649	158	295	12,103	-	12,103
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	144	144	△144	-
計	11,649	158	439	12,248	△144	12,103
セグメント利益	4,962	34	93	5,090	5	5,095

(注) 1. セグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益の合計額は四半期連結損益計算書の営業利益と同額であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	炭素製品 関連	炭化けい素 製品関連	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,681	434	133	6,249	-	6,249
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	-	200	200	△200	-
計	5,681	434	333	6,450	△200	6,249
セグメント利益	951	126	38	1,116	3	1,120

(注) 1. セグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益の合計額は四半期連結損益計算書の営業利益と同額であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり四半期純利益	295円26銭	43円88銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	3,266	485
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	3,266	485
普通株式の期中平均株式数 (百株)	110,626	110,629

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数については、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式を、前第1四半期連結累計期間は427百株、当第1四半期連結累計期間は427百株を控除しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

日本カーボン株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 矢野浩一 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 秋山謙二 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本カーボン株式会社の2020年1月1日から2020年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2020年1月1日から2020年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本カーボン株式会社及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていない。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年5月11日
【会社名】	日本カーボン株式会社
【英訳名】	Nippon Carbon Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 宮下 尚史
【最高財務責任者の役職氏名】	—
【本店の所在の場所】	東京都中央区八丁堀一丁目10番7号
【縦覧に供する場所】	日本カーボン株式会社大阪支店 (大阪市北区西天満4丁目11番22号(阪神神明ビル内)) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長宮下尚史は、当社の第162期第1四半期（自 2020年1月1日 至 2020年3月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。